

# 天下第一新能

片山九郎右衛門 新能

## ●演目紹介

### 能「巻絹 まきぎぬ」

出演 片山九郎右衛門 他

勅命によって熊野本宮へ絹を運んでいた都の男は、本宮境内に祀られていた音無天神へと真っ先に参詣し、心中で和歌を詠み神に捧げます。その後、彼は絹を届けるのですが、期日は既に過ぎた後でした。勅使が懲罰として男を縛り上げていると、そこへ巫女が現れ、神は男の歌を納受したのだからその男を赦せと言います。神託を疑う勅使に対し、巫女は男に歌の上句を詠ませた上で自らその下句を言い、神託の正しさを証明して男は赦されます。巫女は、口に出さずとも心に念じれば神はそれを納受するのだと述べ、神仏の道を体現する和歌の徳を讃えて舞います。やがて、巫女は神の帰還を願うべく神楽を奉納し、熊野の神々が次々と憑依(ひょうい)し、神懸かりとなって再び激しく狂い舞うのでした。

### 能「土蜘蛛 つちぐも」

出演 片山九郎右衛門 延岡のこどもたち 他

病気で臥せる源頼光(みなもとのらいこう)のもとへ、召使いの胡蝶(こちょう)が薬を携えて参上します。ところが頼光の病は益々重くなっている様子です。夜も更けた頃、頼光の病室に見知らぬ法師が現れます。よく見るとその姿は蜘蛛の化け物でした。千筋(ちすじ)の糸を繰り出し、頼光を絡めようとするのを、頼光は、枕元にあった源家相伝の刀を抜き払い、斬りつけました。騒ぎを聞きつけた頼光の侍臣独武者(ひとりむしゃ)らが駆けつけます。頼光は「一命をとるに至らなかった蜘蛛の化け物を成敗しろ」と命じます。独武者が土蜘蛛を追っていくと、古塚の中から土蜘蛛の精が現れます。土蜘蛛は千筋の糸を投げかけて独武者たちをてこずらせませんが独武者たちは土蜘蛛を退治します。

### 狂言「蝸牛 かぎゅう」

出演 茂山千五郎 他

出羽の羽黒山から出た山伏が、大和の国葛城山で修行を終えての帰り道、竹藪の中でひと寝入りしていると、主人の言い方で長寿の薬となる蝸牛(カタツムリ)を探してきた太郎冠者と出くわします。実は太郎冠者は蝸牛をいままで見たことがありません。竹藪には必ずいるもので、頭は黒くて、腰に貝を付けている、そして角を出すと主人から教えられてきた太郎冠者、目の前にいる山伏を覗くと黒い兜巾(ときん)を被り、腰にはほら貝をぶら下げています。これは蝸牛に間違いない。すっかり山伏が蝸牛と信じ、主人のところへ連れて帰ろうとします。この勘違いに気づいた山伏はからかってやろうと、角を出すマネをしたりします。そこに主人が現れ「あれは蝸牛ではなく山伏じゃ」というのですが…。

## ●演者紹介



観世流能楽師シテ方  
片山九郎右衛門  
かたやま くりうえもん

観世流能楽師シテ方。1964年九世片山九郎右衛門=故幽雪(人間国宝)の長男として生まれる。祖母は京舞井上流四世家元の故井上愛子(人間国宝)、姉は五世井上八千代(人間国宝)。幼少より父、長じて八世観世鏡之丞(人間国宝)に師事。のべおか天下第一新能をはじめとして各地の能公演のプロデュースなどにも意欲的に取り組む。海外公演にも積極的に参加しており、のべおか天下第一新能ドイツ公演を監修。1997年京都府文化賞奨励賞、2003年京都市芸術新人賞、2003年文化庁芸術祭新人賞、2007年日本伝統文化振興財団賞、2015年、芸術選奨文部科学大臣新人賞を受賞。2008年から京都観世会会長、2011年に十世片山九郎右衛門を襲名。



大藏流狂言師  
茂山 千五郎  
しげやま せんごろう

大藏流狂言師狂言師。1972年十三世千五郎=五世千作の長男として生まれる。祖父は四世千作(人間国宝)で祖父、父らに師事。4歳の時に「以呂波」のシテにて初舞台。かつて「花形狂言会」「狂言小劇場」「TOPPA!」や若手能楽師による能楽グループ「心味の会」を主催し、狂言のみならず能楽のファン開拓にも力を注ぐ。現在は「茂山狂言会」、弟の茂との兄弟会「傳之会」、落語家桂よね吉との二人会「笑えない会」を主宰し幅広い年代層へ狂言の魅力伝える。また上海京劇院・巖慶谷や川劇変面王・姜鵬とのコラボ公演など、他ジャンルとの共演も精力的に行う。2016年に十四世茂山千五郎を襲名



### 内藤家旧蔵の能狂言面

宮崎県指定有形文化財となっている内藤家旧蔵の能狂言面は、江戸時代を通じて、領内の平和と繁栄を祈願するために毎年開催されていた神事能において使用されていたと考えられる能面です。桃山時代から江戸時代初期にかけて活躍し、技量に優れ、「天下第一」の称号を授与された面打師たちによって作られた能面三十点を含む七十二点の能狂言面は、その質と量はもとより、城下町であった延岡の歴史と文化を彷彿とさせる貴重な歴史資料と言えます。

### 延岡のこどもたちも出演

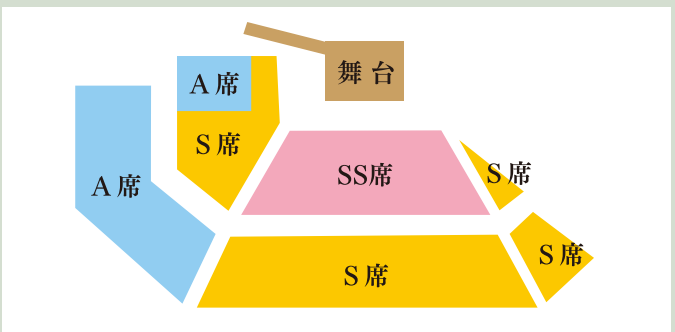


地元のこどもたちが日本を代表する出演者と共演するのも大きな特徴です。10年以上にわたって続けられており、地域の歴史文化を後世に繋ぐのはもちろん、日本を代表する伝統文化の継承にも大きな役割を果たしてきています。この公演の監修を務める片山九郎右衛門さんの発案で始められ、これまで子方として重要な役回りを演じるとともに、故片山幽雪さん(人間国宝)とも、連吟や舞等で共演、福岡市の博多座で行われた特別公演「鞍馬天狗」では野村萬斎さんと共演しました。今回で12回連続、14回目となる共演では、「土蜘蛛」のシテツレとなる「胡蝶」役とトモの「従者」役を演じます。また公演の始まりには、「老松」「合浦」「経政」「天鼓」の4曲の仕舞も披露します。片山九郎右衛門さんが直接指導した延岡の「こども能楽プロジェクト」の熱演にもご注目ください。

**こども能楽プロジェクト受講生募集**  
随時、このプロジェクトに参加するこどもたちを募集しています。次の出演者をめざすこどもたちを待っています。

## 座席配置図

席位置は変更になる場合があります。



**入場料**

- ◆SS席(指定席).....10,000円
- ◆S席(指定席).....8,000円
- ◆A席(自由席).....5,000円

## 安心・安全な公演のためのお願ひ

今年も、安全・安心の公演を目指し、いくつかの新型コロナ感染防止の対策を行います。事前にチケット半券へのお名前・連絡先の明記、入場口での検温・手指の消毒の徹底と場内でのマスク着用のご協力をお願いします。また、今後の新型コロナ感染症の感染状況では会場の変更や公演中止となることも想定されますことをご承知おきください。

## 1 住所 (〒 - )

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

## 2 氏名

\_\_\_\_\_

## 3 電話番号

( ) - \_\_\_\_\_

## 4 ご希望のチケットの種類と枚数

\_\_\_\_\_ 席 \_\_\_\_\_ 枚

いただいた個人情報は本新能に関する以外には使用いたしません。